

測定結果表(自律神経年齢)

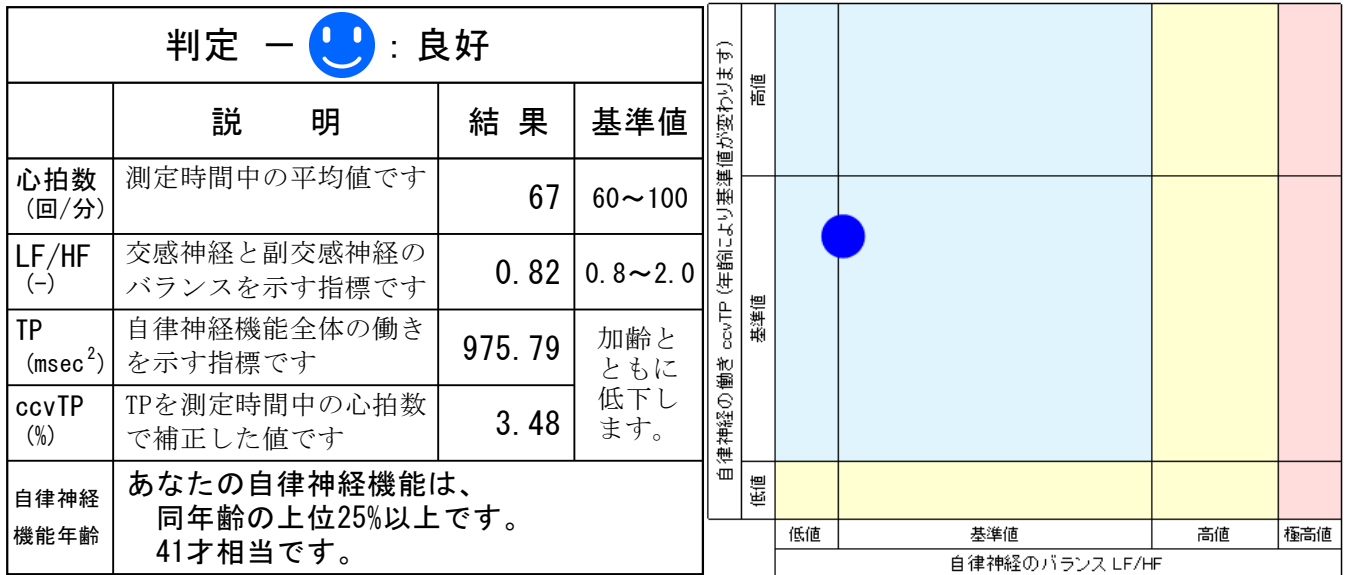
ID : KK-99999999

性別 : 女性

年齢 : 55 才

測定日 : 2014/06/12

1. 疲労・ストレス測定 (心拍・脈拍変動による交感神経・副交感神経測定)



2. 自律神経評価

交感神経系／副交感神経系のバランスはうまく保たれており、自律神経機能活動も正常です。自律神経機能は極めて良好な状態です。この状態を維持するように心がけましょう！

測定結果にて何度も要注意が出る場合は、医師にご相談下さい。

3. 用語の説明

LFとHF	心拍変動のスペクトル解析から得られるパワー値を周波数帯0.04～0.15Hzで積分したものをLF(Low Frequency)と呼び主に交感神経成分が含まれる。 また周波数帯0.15～0.4Hzで積分したものをHF (High Frequency)と呼び副交感神経成分が含まれる。
LF／HF	交感神経と副交感神経のバランスを表す。図示されているように通常2.0以下が正常、2.0以上5.0以下が注意、5.0以上は要注意となる。
TP (トータルパワー値)	自律神経機能全体の働きを示す指標。加齢に伴い数値は減少する。 この数字はLFとHFの総和で表す。(LF+HF)
ccvTP	自律神経機能の働きを示す指標。心拍数が高い場合はTPが高く出る為、 TPを測定時間中の心拍数で補正した値。

監修

倉恒 弘彦
(医師)

田島 世貴
小泉 淳一

関西福祉科学大学 健康福祉学部学部長
大阪市立大学 医学部付属病院 疲労クリニック客員教授
兵庫県立リハビリテーション中央病院 小児科医長
国立大学法人 横浜国立大学大学院 工学研究院 教授